

「包摂的コミュニティプラットフォームの構築」

老後意識調査

老後の資産管理に関する調査（本人、家族） 調査結果

慶應義塾大学 経済学部経済研究所 F G 研究センター 駒村康平



戦略的イノベーション
創造プログラム

Cross-ministerial Strategic
Innovation Promotion Program

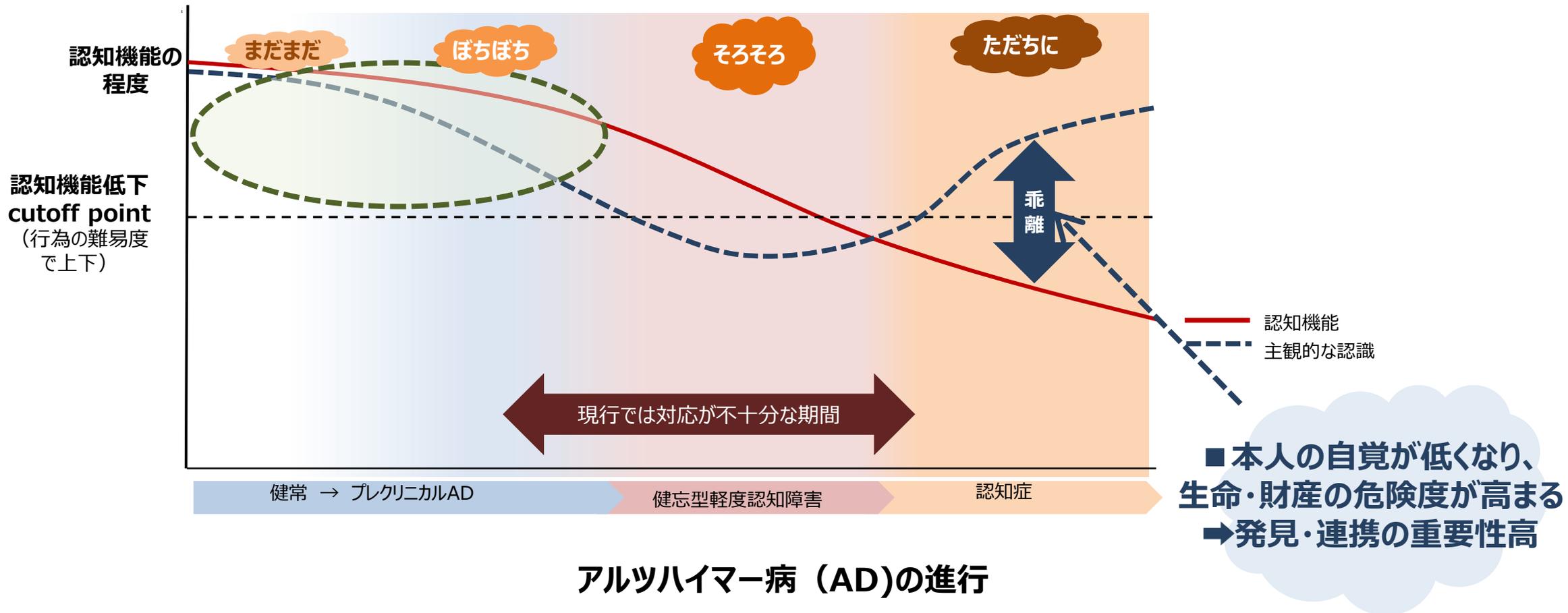
2025年1月29日

低下する認知機能と逆転する自己認識の問題

認知機能はまだ低下していないが、主観的には低下を感じている時期（将来への準備期間）

認知機能の若干の低下が認められるが、契約やATM操作は可能

認知機能が低下しているが、主観的にはそれを認識できない



Ávila-Villanueva, M., & Fernández-Blázquez, M. A. (2017). Subjective Cognitive Decline as a Preclinical Marker for Alzheimer's Disease: The Challenge of Stability Over Time. *Frontiers in aging neuroscience*, 9, 377. <https://doi.org/10.3389/fnagi.2017.00377>

老後の資産管理に関する調査（本人、家族） 調査結果（'24/3月実施） から得られた結論

1：現状とリスクの存在

- ・ 認知症への不安を抱く**高齢者は64%**、子どもに財産の状況を伝えているのは**約35%**（本人調査）
- ・ 親の資産の状況を把握している**子どもは約35%**（家族調査。（1）と整合的）。

2：金福連携に対する評価

- ・ 認知機能の低下が疑われ、金融機関職員が放置できないと判断した場合、**60%～70%の回答者**が「金融と福祉機関の連携」、「可視化」を望む（本人調査、家族調査とも同様）。
- ・ 「金福連携」を積極的に評価する高齢者の特徴
 - ①親子間の連絡・**会話が多い**（高齢者の孤独・孤立問題と関連）
 - ②認知機能に関する**主観的評価が高い**
⇒**認知機能の低下が進むほど、連携の必要性を感じなくなるという矛盾した問題が発生。**
 - ③認知症に関する**知識が高い**

3：すでに発生している問題

- ・ 主観的認知機能が低下すると、特殊詐欺、消費者問題、EC（ネットによる契約）の被害を受ける確率は、**健常者の2～3倍**に上昇する。
- ・ 親が「認知症等で**金融機関口座が凍結された**」経験を持つ子どもは**11%**（家族調査）。

1：調査の概要

調査名	①老後の資産管理に関する意識調査	②親の金融資産管理に関する意識調査
実施日	2024年3月22 – 25日実施	
調査対象	全国 65歳以上 の男女	全国 40歳以上64歳以下 の男女
調査方法	調査会社の登録モニターに対するWeb調査	
調査委託会社	(株)クロス・マーケティング	
質問数	SC調査6問／本調査47問	SC調査6問／本調査94問
回収件数	目標：10,000件→回収：10,000件 (総回収数：72,569件／配信：80,000件)	目標：10,000件→回収：10,000件 (総回収数：29,007件／配信：30,000件)
割付の有無		親の金融資産管理:経験者2千件、未経験者8千件
データの条件	SCにより自営業・自由業・家族従業者を除外	SCにより自営業・自由業・家族従業者を除外
	本人200万円未満、又は夫婦合計で200万円未満の金融資産保有者のデータを除外	
	ストレートラインカット（複数の設問に対し、全て同じ回答をしたデータを除外する）を実施	

2：調査の狙い・目標

■ 調査全体の視点

- 本調査の結果を踏まえ、**当事者及び子世代向け教育プログラムの開発**（親の資産相談リテラシーの向上のための**手引き書の作成**）（2026年6月21日、慶應義塾大学日吉キャンパスで報告予定）

■ 金融包摂に関する研究開発の視点

- **モデル事業**（金融現場における認知機能の低下が疑われる高齢者の発見と**福祉への連携 = 発見・連携**）に対する**本人・家族の意向及び背景を把握**し、モデル事業の普及促進の根拠とする。
- **技術開発**（金融現場における認知機能の把握・評価 = **可視化**）に対する**本人・家族の意向及び受容度を把握**し、技術の社会実装の在り方に反映させる。

	高齢者（本人）の視点	子世代（家族）の視点
発見・連携	本人は、 情報連携を望んでいるか。 情報連携を望む（望まない）本人には、どのような特徴があるか。	家族は、 情報連携を望んでいるか。 情報連携を望む（望まない）家族には、どのような特徴があるか。
可視化	本人は、 認知機能の可視化を望んでいるか。 認知機能の可視化技術の利用を望む（望まない）本人には、どのような特徴があるか。	家族は、 認知機能の可視化を望んでいるか。 認知機能の可視化技術の利用を望む（望まない）家族には、どのような特徴があるか。

資産に関する親子のコミュニケーションは極めて低調。

■子供の有無別にみた「家族に資産内容を伝えているか」（高齢者（本人）調査）

親から家族への資産情報の共有
は約**35%**。（子どもあり）

	全体	子どもあり	子どもなし
伝えている	34.64	36.14	27.61
（伝えようと考えているが）伝えていない	54.56	58.05	38.24
伝えたくない	5.35	4.83	7.78
伝える家族がない	5.45	0.98	26.36

■親の「親の資産の把握状況」（子世代（家族）向け調査）

子どもの親の資産の把握状況（詳しく、ある程度
計）は約**35%**（資産管理未経験者）

資産管理経験者		資産管理未経験者	
詳しく知っていた	12.45	詳しく知っている	5.08
ある程度は知っていた	49.65	ある程度は知っている	29.61
全く知らなかった	30.90	全く知らない	65.31
よく覚えていない、わからない	7.00		

4：すでに発生している問題

「認知症になると金融機関口座が凍結」された経験がある者が、11.3%存在することが初めて確認された。

■銀行口座の凍結状況：子世代向け（家族）向け調査－資産管理経験ありの回答者

- 認知症等を理由に、あなたの親の銀行口座が凍結されたことがありますか。

	選択肢	回答数	割合%
1	複数の金融機関で凍結されたことがある	106	5.3
2	一つの金融機関で凍結されたことがある	119	6.0
3	凍結されたことはない・わからない	1,775	88.8
	全体	2,000	100.0

5 : 調査結果の概要 : 発見・連携 – 高齢者 (本人) 調査

質問

「あなたは、ご自分に認知症が疑われるような言動があり、かつあなたの保護支援が必要であると金融機関の職員が判断した場合に、金融機関から自治体や福祉関係機関等に対して、あなたの氏名や住所を知らせることについてどう考えますか。」

■ 回答結果 (回答数10,000・SA)

選択肢		回答数	割合%
1	知らせて欲しい	6,195	62.0
2	知らせないで欲しい	3,805	38.1

● 理由 (回答数10,000・MA)

		選択肢	回答数	割合%
知らせて欲しい	1	自分が認知症になっているかどうか分かるから	4,682	75.6
	2	金融機関が自分を見守りしてくれると安心だから	2,310	37.3
	3	その他	237	3.8

ロジット分析「子どもなし」群

要素	オッズ比
予想寿命が長い※	1.01
認知症になることは「非常に不安」●	3.96
認知症になることは「まあまあ不安」●	2.81
相続に対する考え方を家族に伝えたい	2.35
認知症について学んだことがある	1.36
資産を誰かに「なるべく残したい」▲	2.02
資産を誰かに「なるべく残したくない」▲	1.31
認知機能の主観的評価が良い *	2.27
年齢が高い	0.98

質問

「あなたは、あなたの親に認知症が疑われるような言動があり、かつあなたの親の保護支援が必要であると金融機関の職員が判断した場合に、金融機関から自治体や福祉関係機関等に対して、あなたの親の氏名や住所を知らせることについてどう考えますか。」

■ 回答結果: 資産管理経験者 (回答数2,000・SA)

	選択肢	回答数	割合%
1	知らせて欲しい	1,259	63.0
2	知らせないで欲しい	741	37.1

● 理由 (回答数2,000・MA)

		選択肢	回答数	割合%
1. 知らせて欲しい	1	親が認知症になっているかどうかわかるから	910	72.3
	2	金融機関が親を見守りしてくれると安心だから	590	46.9
	3	その他	57	4.5

6 : 調査結果の概要 : 可視化 – 高齢者 (本人) 調査

質問

「あなたは、あなたの認知機能が (点数などで) 数値化・可視化されるサービスができたなら、利用したいと思いますか？」

■ 回答結果 (回答数10,000・SA)

選択肢		回答数	割合%
1	思う	6,816	68.2
2	思わない	3,184	31.8

● 理由 (回答数10,000・MA)

		選択肢	回答数	割合%
1. 知らせて欲しい	1	いつまでも健康でいたいと思うから	3,752	55.0
	2	認知症になっているかどうか早くわかるから	4,736	69.5
	3	その他	98	1.4

6 : 調査結果の概要 : 可視化 - 子世代 (家族) 調査

質問

「あなたは、あなたの親の認知機能が（点数などで）数値化・可視化されるサービスができれば、親に利用してもらいたいと思いますか？」

■ 回答結果: 資産管理未経験者 (回答数8,000・SA)

選択肢		回答数	割合%
1	思う	4,773	59.7
2	思わない	3,227	40.3

● 理由 (回答数8,000・MA)

		選択肢	回答数	割合%
1. 思う	1	いつまでも親に健康でいて欲しいから	2,972	62.3
	2	親が認知症になっているかどうか早く発見できるから	3,042	63.7
	3	その他	87	1.8